

【大阪府】

# 大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

## 「被災地支援による環境保全プロジェクト」

高校生ボランティア・アワード2021

### 「被災地支援による環境保全プロジェクト」

#### 【活動概要】

本校においては、大阪府堺市の伝統地場産業である「打ち刃物」と「線香」を学ぶ「堺学」という授業を行っている。2011年3月11日に発生した「東日本大震災」以来、毎年「堺学」の授業で製作した「包丁」と「線香」及び「義援金」を被災地を訪問して、直接手渡している。また、被災地である岩手県釜石市のタブの木（線香の原料）を使い、被災地の高校との「コラボ線香」を作って支援をしたり、今までに寄贈した「包丁」の研ぎ直しのための訪問もしている。今年も、被災地に「椿」を植樹する「レッドカーペット」プロジェクトにも参加する。熊本地震・九州北部豪雨・北海道胆振東部地震・西日本豪雨の募金活動も行い、被災地を訪問し、支援活動を続けている。

自然災害が多発している昨今、地球温暖化防止のために環境のことを考え、私たちは「バイオディーゼルの発電機」（不要な油を使って電気を作る）を製作した。この「発電機」があれば、家庭の天ぷら油や処分した油で電気が作れるので、停電の際に地域や被災地に役立ててもらえる。また、最近問題になっている「プラスチックゴミ」から油を作る「プラスチック油化装置」も製作した。その油を「バイオディーゼルの発電機」に入ると電気が出来る。すなわち、「プラスチックゴミ」から電気を作ることが出来る。

バイオディーゼルの発電機による「電気自動車」と「電動リカト」の充電



包丁研ぎ直し



### 「被災地の高校生と支援活動を」

#### 【活動の目的・志】

- ・伝統地場産業を学び、「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。
- ・地場産業を通して学校外で様々な職業体験をし、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力をつける
- ・ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を持つ。
- ・被災者の方々から得た教訓等を地域にフィードバックする。
- ・被災地の高校生と一緒に活動することにより、地震等の自然災害の風化を防ぐ。
- ・「プラスチックごみ」を有効活用することにより、地球温暖化を防止して、自然災害を減らす。



寄贈した包丁



包丁製作風景



高校生ボランティア・アワード



岩手県立大船渡東高校との交流



宮城県農業高校との交流



寄贈した線香



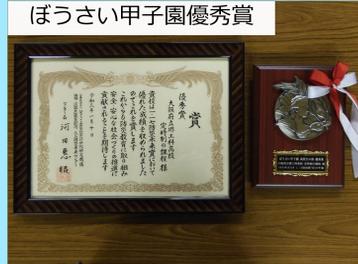
1万人のキャンドルナイト



吉村大阪府知事



レッドカーペットプロジェクト



ぼうさい甲子園優秀賞

### 「自己有用感を高める支援活動プロジェクト」

#### 【活動の詳細(実施内容/成果・実績)】

年月日	支援内容
2011年 3月11日	東日本大震災発生
2011年 5月	堺学Bにおいて被災地へ向けて刃物作成に取り掛かる(津波により小中学校の家庭科調理実習用の包丁が流されたため)
2011年 8月	岩手県遠野市の小中学校へ生徒が作成した刃物102丁寄贈
2011年 9月	堺学Cにおいて岩手県遠野市のお線香(市花のやまゆりの香り)及び岩手県釜石市のお線香(市花のはまゆりの香り)作成
2012年 2月	お線香の売上剰余金を遠野市・釜石市へ義捐金として寄付
2012年 8月	岩手県釜石市の小中学校へ生徒が作成した刃物102丁寄贈
2012年 9月	堺学Cで岩手県陸前高田市のお線香(市花のつばきの香り)及び宮城県気仙沼市のお線香(市花のつばきの香り)作成
2013年 3月	岩手県陸前高田市を訪問し、生徒が作成した刃物30丁と生徒が販売したお線香の売上剰余金を手渡す。宮城県気仙沼市を訪問しお線香の売上剰余金を手渡す、岩手県釜石市を訪問した際、お線香の原料の楠の木が釜石市の市木であることを知った。市長が、釜石市の楠の木を使って本校生徒にお線香を作ってもらいたいとの強い要望
2013年 9月	堺学Cで釜石市の楠の木を使ってお線香を作成来年3月の追悼式に参列者全員に配布出来るように生徒が800箱作り「絆」と名付ける
2013年10月～	本校全生徒によるメッセージカードを800箱の中に入れる
2014年 3月	岩手県釜石市東日本大震災犠牲者追悼式に参列、参列者全員に生徒作成のお線香「絆」を手渡す、宮城県気仙沼市を訪問し、生徒が作成した刃物を手渡す
2014年 6～7月	堺学Bで気仙沼市への刃物作成に取り掛かる
2014年 7月	実践的防災教育総合支援事業・災害ボランティア活動により、生徒4名教員1名で宮城県・岩手県訪問。気仙沼市から要望のあった生徒作成の刃物を市長及び教育長に手渡す、釜石市の仮設住宅訪問、釜石市長訪問、岩手県立釜石高校訪問
2014年 9月～	堺学Cで宮城県名取市のお線香(津波に負けないカーネーションの香り)作成、宮城県名取市のお線香販売実習。名取市長訪問、名取市のお線香と販売実習の売上剰余金と堺学A・Bで生徒が作成した刃物を手渡す
2015年10月～	堺学Cで宮城県石巻市のお線香(桜の香り)を作成、各イベントで販売実習、堺学A・Bで石巻市への刃物製作
2016年 3月	石巻市教育委員会訪問、石巻市のお線香と販売実習の売上剰余金と堺学A・Bで生徒が作成した刃物を手渡す。宮城県農業高校訪問、津波の被害で校舎が流され、仮設のプレハブ校舎で勉学に励んでいる姿に打たれ、支援を約束する
2016年 7月	実践的防災教育総合支援事業・災害ボランティア活動により、生徒3名と引率教員2名、及び伝統工芸士の方々4名の計9名で、今まで寄贈した「包丁」と津波等の被害で切れ味の悪くなった「包丁」の「研ぎ直し」をするために、宮城県名取市・石巻市・気仙沼市、岩手県釜石市の仮設住宅、教育委員会、市役所等を訪問し、400～500丁の「包丁」の「研ぎ直し」をおこなう。宮城県農業高校を訪問し、両校生徒で「コラボ線香」の打ち合わせをする
2016年 9月～	堺学Cで、宮城県農業高校から届けられた桜の花びらを練り込んだ「コラボ線香」の作成及び販売。岩手県釜石市の「橋野鉄鉱山」世界遺産登録記念のお線香及び、大阪府の百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録祈願のお線香の作成、堺学Aで宮城県農業高校へ寄贈する刃物の作成
2017年 3月	岩手県釜石市を訪問し、「橋野鉄鉱山」世界遺産登録記念線香の寄贈、宮城県農業高校を訪問し、「コラボ線香」と「刃物」の寄贈
2017年 3月	熊本地震被災地訪問、被災状況の見学、益城町役場・阿蘇神社に義援金を手渡す
2017年 7月	実践的防災教育総合支援事業・災害ボランティア活動により、生徒3名と引率教員2名で被災地を訪問。震災遺構の見学及び被災地各市長との支援内容の打ち合わせ、宮城県東松島市教育委員会に「包丁」寄贈九州北部豪雨の被災地である福岡県朝倉市を訪問、被災状況の見学、朝倉市役所に義援金を手渡す
2017年 9月～	「堺学C」で宮城県東松島市に寄贈する「桜」(東松島市の花)の香りの「線香」の作成、「堺学A」で宮城県東松島市に寄贈する「包丁」の作成
2018年 2月	福岡県朝倉市・熊本県阿蘇神社・熊本城・益城町を訪問、各被災地に義援金を手渡す
2018年 3月	宮城県名取市関内地区・宮城県農業高校を訪問、宮城県東松島市に「包丁」と「線香」の寄贈、岩手県遠野市教育長に「包丁」と「線香」の寄贈
2018年 6月	大阪北部地震が発生、宮城県農業高校より手作りの「野菜」と「桜漬」が届けられる
2018年 7月	福岡県朝倉市・熊本県阿蘇神社・熊本城・益城町を訪問し、義援金を手渡す実践的防災教育総合支援事業・災害ボランティア活動により、生徒3名と引率教員2名で宮城県・岩手県各被災地を訪問・宮城県農業高校と交流、各被災地で包丁の研ぎ直しをおこなう
2018年10月	岩手県大船渡市支援用の「包丁」と「線香」を「堺学」の授業で製作
2018年12月	北海道胆振東部地震の被災地である札幌市・鶴岡市・早来町・北広島市を訪問し。義援金を手渡す
2019年 2月	西日本豪雨の被災地である岡山県・広島県を訪問し、義援金を手渡す
2019年 3月	岩手県大船渡市を訪問し、大船渡東高校と大船渡高校に「包丁」と「線香」を寄贈、大船渡市役所・宮城県女川町に義援金の手渡し、宮城県農業高校との交流
2019年 7月	「文部科学省」災害ボランティア活動により、生徒2名引率教員2名で被災地を訪問。宮城県・岩手県において伝統工芸士と「包丁」の砥直しをおこなう宮城県農業高校・岩手県立大船渡高校・岩手県立遠野緑峰高校と交流。被災地を「椿の花」でいっぱいにする「レッドカーペット・プロジェクト」に取組む
2019年 9月	「日本ユネスコ協会」被災・防災プログラム助成校に決定。東北被災地の視察訪問
2019年10月	北海道胆振東部地震の被災地訪問。各被災地に「義援金」と「支援品」を手渡す
2020年 7月	「プラスチックゴミ油化装置」の製作・改良に取り組む
2020年 7月	首相公邸において本プロジェクトが「内閣総理大臣賞」を受賞した
2020年11月	「文部科学省」災害ボランティア活動により、生徒4名と引率教員2名で被災地を訪問宮城県・岩手県において「支援品」の手渡しをおこない、宮城県農業高校と「桜漬」・岩手県立大船渡高校と「レッドカーペット・プロジェクト」の交流



内閣総理大臣賞授賞式



内閣総理大臣賞

#### 【活動団体プロフィール】

2011年3月11日に「東日本大震災」が発生し、9月に東北支援プロジェクトを立ち上げた。ボランティア活動部及び「堺学」受講生徒を中心に活動を行い、岩手県・宮城県の被災地を訪問して、自分たちが作った「包丁」・「線香」・「義援金」を手渡している。近年は、寄贈した「包丁」の研ぎ直し訪問もしている。各地で自然災害が多発していることから、「東北支援プロジェクト」を「復興支援プロジェクト」とした。自然災害が多発している昨今、電気を一切使わず、不要な食用油を使って発電することが出来る「バイオディーゼルの発電機」を製作した。また、「プラスチックゴミ」を有効活用することが出来る「プラスチック油化装置」も製作した。そして、これらの活動が認められ、「内閣総理大臣賞」を受賞した。

### 「捨てればゴミ、活かせば資源」～防災・減災活動～

#### 【今後の展望・夢】

災害がおこると、水道・ガス・電気等のライフラインが止まって、被災者の方々は避難所や、車中泊等での生活を余儀なくされる。本校の「ボランティア活動部」と「エコデンカー(ガソリン等は一切使わずに電気モーターで走る環境に優しい自動車)部」が協力して、地域の防災活動のために「バイオディーゼルの発電機」(不要な油を使って発電する機械)を製作する計画を立てた。そして、「バイオディーゼルの発電機」を各被災地に寄付することが出来れば「車中泊」で不自由な生活をしている方々の役に立てることが出来る考えた。また、「ガソリン」などを燃料にするより、家庭や店舗で不要になった食用油で発電することが出来れば、環境にも素晴らしいので、「バイオディーゼルの発電機」を製作した。地域のイベントで、近隣住民の方々が持ち寄ってくれた「食用油」で発電し、「被災地支援」について話し合い、地域とともに支援活動に取り組んでいる。また、避難場所へ誘導する「電気自動車」と小学生のために「電動リカト」も製作した。環境問題にも取り組み、最近問題になっている「プラスチックゴミ」の有効活用出来る「プラスチック油化装置」も製作し、地球温暖化による自然災害を減らしていきたい。今後も「捨てればゴミ、活かせば資源」をキャッチフレーズに、地域の防災・減災活動のと考えている。



様々な機器の充電



プラスチックゴミ油化装置